



2024年12月13日

各位

会社名 株式会社マーキュリアホールディングス
代表者名 代表取締役 豊島 俊弘
(コード番号：7347 東証プライム)
問合せ先 執行役員 経営管理統括 滝川 祐介
(TEL. 03-3500-9870)

通期業績予想の修正、配当予想の据え置き 及び中期利益計画の延長に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2024年2月13日に開示した2024年12月期（2024年1月1日～2024年12月31日）の業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

また、本日開催の取締役会において、2025年12月期を最終年度とする中期利益計画を1年間延長することとしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 当期の連結業績予想数値の修正（2024年1月1日～2024年12月31日）

	営業収益	営業総利益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 6,800	百万円 6,700	百万円 3,000	百万円 3,000	百万円 2,000	103円41銭
今回修正予想（B）	5,500	5,000	1,400	1,500	900	46円54銭
増減額（B－A）	△1,300	△1,700	△1,600	△1,500	△1,100	
増減率（％）	△19.1	△25.4	△53.3	△50.0	△55.0	
（参考）前期連結実績 （2023年12月期）	5,842	4,033	1,344	1,520	1,055	53円99銭

2. 修正の理由

当社グループが行っているファンド運用及び自己投資の業績は、経済環境、株式市況、各国の政治情勢など様々な要因に影響されます。

ファンド運用事業における管理報酬については安定的に収益を見込むことができますが、成功報酬及び自己投資事業の収益については、損益水準と期間帰属を正確に予想することは難しく、とりわけ成功報酬ステージ到達後のバイアウトファンドについてはファンド投資先の売却タイミングが当社グループの期間損益に大きく影響いたします。

過去においてもファンド投資先の売却時における独占禁止法の定める手続きや買手候補の意思決定に時間を要する等、相対取引であることの性質を主要因とする業績予想の修正を行うことがありました。しかしながら、当社では、売却取引のタイミングの遅れが、ファンド投資先の事業価値を損なうものではないと認識しております。

当社グループの2024年12月期における業績予想の修正は、主に当初想定していたバイアウトファンドにおける投資先2社の売却のうち1社の売却について、相対取引特有の要因により年内合意が困難な見通しとなったことによるものです。

また、Spring REITについては、当社グループはスポンサーとして自己投資を行っておりますが、中国経済の現況が香港 REIT 市場全般に影響しており、ユニット単価の低下に伴う評価損が営業原価に計上されたことも業績予想の修正に影響しております。

上記を受けて、営業収益、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の予想が前回発表予想との対比において、その差異が開示基準に達する見通しとなりましたので、営業収益、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の業績予想を修正するとともに、付随して、営業総利益の業績予想を修正することといたします。

なお、ファンド投資先の売却が翌期へ延期されることとなりましたが、その要因はタイミングの後ろ倒しによるものであり、投資先の事業価値の低下によるものではなく、また、Spring REIT のユニット単価についても、香港 REIT 市場全般が中国経済の現況の影響を受けてはいるものの、保有不動産はいずれも底堅い稼働を維持しておりますので、本源的価値に大きな低下はないものと考えております。

3. 配当予想に関して

当社グループは、成功報酬及び自己投資事業の収益についてはファンド投資先の売却タイミングやマクロ環境等が、損益の期間帰属に影響を与え、決算に反映されるタイミング等について正確な予想を行うことが困難であるため、配当の安定性を考慮し、「5年平均当期純利益」に対して配当性向30%程度を基準に毎期待当していくことを基本方針としております。

今回の連結業績予想の修正は損益の期間帰属の影響が主要因であることから、期初からの配当予想を据え置き、1株当たり配当金は22円とさせていただく予定です。

4. 中期利益計画の延長に関して

当社グループは、2025年12月期を最終年度とする中期利益計画に取り組んでまいりました。

中期利益計画においては、①バイアウトファンド事業においては、1号ファンドの成功報酬の最大化、自己投資収益の拡大及び2号ファンドの組成による管理報酬の積み上げ、②Spring REIT 事業においては安定運用による管理報酬の積み上げ及びユニット単価の安定化、③資産投資事業においてはファンド総額の拡充による管理報酬の積み上げ等を行ってまいりました。

しかしながら、①成功報酬ステージに到達しているバイアウトファンドにおいて成功報酬の最大化及び自己投資収益の拡大を目指す中においては、現在のマクロ環境及び個別のファンド投資先の状況を踏まえ、最適な売却タイミングを選ぶことが望ましいと考えられること、②中国経済の現況の影響を受けた、Spring REIT のユニット単価の低下が評価損として計上されており、ユニット単価の回復による評価損の戻入には一定の時間を要すると考えられること、③資産投資事業において想定していた航空機ファンドについて、新型コロナウイルス正常化後の運用は順調であるものの、機関投資家のセンチメントの戻りが遅く、規模拡大には想定以上の時間を要していること等の理由から、2025年12月期において中期利益計画における目標である5年平均当期純利益（5年平均の親会社株主に帰属する当期純利益）20億円及び自己資本（株主資本及びその他の包括利益累計額の合計額）193億円（公募増資考慮後）を達成することが困難と判断いたしました。

このため、中期利益計画の最終年度を2025年12月期から2026年12月期に延長することといたします。

※ 上記の業績予想数値につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上